

そして

うたおほう

NO.194

2021年12月13日発行

<練習予定>

2021年	12月	13	20日	
2022年	1月	10	17	24日
	2月	7	14	21日

練習曲 「ADVENTJ ENEK」 コダーイ作曲
「飛行機よ」 寺山修司作詞 萩 京子作曲
組曲「戸隠」 大川五郎 作詞作曲
「どこかで春が」 寺嶋隆也 編曲

<練習時間> 月曜日6時30分～9時00分 <練習場所> 崇善公民館

練習欠席の際の連絡 男性：鈴木 090・8452・5037

女性：栗原 090・4920・6626

北村 090・4077・3947

私と合唱

バス

西村 徹

待望のHCC第4回公演が、来年9月19日新しい「平塚文化芸術ホール」での開催と決まり、第2代指揮者としてお迎えした日本最高の指揮者のお一人、中村拓紀先生のご指導の下、これから1年近く練習が続くわけですが、私が合唱活動で心掛けていること、目標にしていることをご紹介します。

私は現在、平塚の3団体（平塚混声、コール・ブラックス、HCC）で歌っていますが、一時は、小田原のシグナス合唱団でも並行して歌っていました。シグナス合唱団は草創期に、世界的な指揮者・小澤征爾さんがピアニストとして参加されていた、神奈川県では最古という老舗混声合唱団です。その団のベースに下澤孝さんという先輩がいました（故人）が、練習の時は鉛筆片手に先生のご注意を最大漏らさず楽譜に書き込み、次の練習ではそこを注意して歌うということを励行されており、本番では楽譜が真っ黒になっていました。

また指揮者の青木雅也先生は「お客様第一」で、いつもお客様に楽しんで喜んでもらう演奏・舞台を心掛けていらっしゃいました。私も下澤さんの習慣と団の姿勢を見習い、いつも最高の演奏をお客様にお届けすることを目標に練習してきました。これは、団が変わっても同じです。私は楽譜の初見では直ぐに音が取れないので、いつも自宅のキーボードで音取りをして次の練習に臨んでいます。人の倍、時間が掛かっていると思いますが、事前練習が私の拠り所です。今ではキーボードにも慣れて音取りの時間は少なくなり、先生がご注意された所の補習・表情をつける練習がメインになっています。人によって練習のやり方は様々と思いますが、ご参考まで。

大川先生と 関わられて合唱された皆様にはきっと数え切れないくらいの思い出をお持ちの事と思います。私にとって大川先生とは HCC 以前の方が多くの思い出が有ります。

26年前 夫没後 若い頃からの合唱仲間にお誘いを受け主に宗教曲をオーケストラで歌う合唱団湘南シテイーに入団 三大レクイエム等も演奏会で歌いました 練習会場が主に藤沢だったので電車で通い何時の頃からか 奥様がソプラノで歌われていて仲良くなった大川ご夫妻と何時も帰りの電車で楽しいお喋りをしながら帰るようになりました。そのお喋りの中でなんと！私が丸の内でお勤めをしていたビルと大川先生お勤めのビルがお向かい 仕事も関りが在ったと知り スッカリ意気投合し奥様共々 楽しくお喋りしながら平塚まで帰りました。何度か合宿でもお世話に成りました。シテイーでは大川先生はソロをされたり団員のボイストレーニング等もされていました。その後私は両親の介護に突入 合唱どころではなくなりシテイー退団 6年間歌うことが出来ませんでした。

両親他界の後 二宮さんにお誘いを受け HCC に入団 大川先生との再会でした。入団 3 か月後には HCC の演奏会 全ての曲を覚えなくてはならず 大川先生の演奏会に向けての厳しいご指導は 以前のユーモラスな大川五郎さんの姿は在りませんでした。何度も指摘を受けソプラノは一人づつ歌わされプロでも無いし趣味で歌っていたのに何故？辞めることも考えて居るうち 私のたった一人の妹が入退院を繰り返しその看病で又しても長期に休団、妹が亡くなり HCC に復帰 なんと帰って見たらソプラノがピアニスト 2 名と会計されていた方と計 3 名のみ？辞めるに辞められなく成りました。後日 3 名ほどソプラノへ入団して下さり 大川先生も昔の私の知るユーモアのある指導者に復活されて平塚教会でのミニコンサートを開く事に成りました。その直前古いから？と言われ副団長を仰せつかり何も HCC の事が解らぬまま周りの方々に助けられ そして体調も万全では無かったはずの大川先生の素晴らしい歌声にも助けられ大雨の中多くの方々にも聞きに来ていただき 素敵な演奏会に成りました。

その後大川先生の病状も一進一退を繰り返し 奥様の体調も思わしくなく 娘さんの傍に引越しされましたが 大川先生の気力は何処から？と思うほど HCC に掛ける情熱は素晴らしく二時間以上かけても電車でレッスンに来て下さいました。私たち役員もこれ以上先生のお身体の事を考えるとこのまま指揮をお願いして良いものか？江川顧問と役員三名東京まで先生をお尋ねしご相談に伺いました。かなり痩せられて でも気力は落ちないまま、しかし私達の心配も受け入れて下さり 新しい指揮者を探しても良いとの判断をして下さいました。その後思わぬくらいの速さで病状は進み 多くの曲を残し 2020年2月22日とうとう帰らぬ人に成られてしまいました。心からご冥福をお祈りいたします。

今歌って居る合唱組曲 「戸隠」の中に

♪

「立ちて並びて拍手相打ち 永き旅の後 今此処に着きたる年老いしつがいあり

この歌詞こそ大川先生の歌と奥様へのこれほど深い愛情を歌い上げた詩は無いでしょう！歌いながら胸が熱くなってしまうのは 私だけでは無いと思います。新しいホールで大川先生はこの歌を指揮されたかったでしょうね。 HCC の皆様 先生の分まで心を込めて歌いましょう。